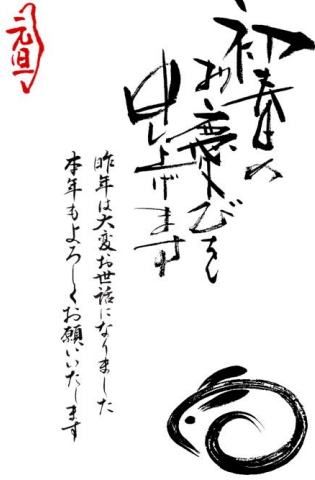


光受寺通信



昨年あるご門徒のお宅へ「おとりこし」に出かけ折の事でした。80代のご主人のお話に深く頷かされました。

長らく病気がちな方ではありましたが、健康のためにと何キロか歩くことを、日課にしていってました。私は「まだ頑張ってみえますか」。とお尋ねすると、「まあ、あんまり歩いとらん。寒かったり、雨が降ったり、暑かったり、いろいろ理由を付けて怠けるとわな。行きたくない時はいくらでも理由は付けられるでな。たとえお天気が良くてもな」。～笑い～続けて「この年まで生かされてきたので、本当は感謝の気持ちを持たなあかんのやろけど、ちっともそんな気持ちが起こってこんのですわ。もっと、もっと、と思う気持ちだけが大きくなるだけで、どうしようもないですわ」。私はその深いご自覚のにじみ出た正直なお話に、「私もいつしよです」。と言いたかったのですが、なぜか口をつぐんでしまったのです。

責任役員になって

H・M

新年あけましておめでとございます。皆様にはよき年を迎えられたことと存じます。さて私は昨年の十一月の役員会において、前責任役員の方山崎さんがご退任されましたので、その後任として指名されました。山崎さんには長い間お世話になり「苦勞様でした。総代になつてわずかに二年ほどで、経験も知識もなままお引き受けることになり、責任の重大さを痛感しております。十二月十一日の報恩講では就任のご挨拶を述べさせていただきました。後期高齢者で十分に務めが果たせるのかどうか心配はつきませんが、皆様のご指導をよろしくお願いたします。

本年が「兎年」。コロナが終息して皆様の日常の行動が元気になりますように願っています。冬きたりなば春遠からじ
梅の花一輪一輪の暖かさかな



旧役員の皆様、長い間お世話になり、ありがとうございました。

振り返れば、今回ご退任の皆様にはおよそ十数年の間、その役席を担っていただき、各行事の執行をはじめとして光受寺の護持運営に大変ご尽力いただきました。ここに光受寺を代表いたしまして心より御礼を申し上げます。
特に光受寺改修工事、御遠忌、報徳会につきましては、格別の労力とお気遣いをいただき、おかげをもちまして光受寺の歴史に残る大仕事を立派に成し遂げることができました。またこうした行事を通して、門徒が心を一つにできたことも大きな成果であったように思います。本当にありがとうございました。

旧役員の皆様(敬称略)

責任役員	T・Y
総代	N・M
総代	K・O
会計	Y・Y

新役員の皆様(敬称略)

よろしくお願いたします。

責任役員	H・M	会計	S・N
総代	K・Y	會計監査	M・U
総代	K・N	十日講代表	H・U
総代	T・F	門徒会代表	H・M
総代	Y・M		K・Y

報恩講勤まる

十二月十二日(日)



お天気にも恵まれ満堂でした。

「コロナ感染状況も終息を迎えることもなく、第8波の拡大の最中ではありましたが、多く方のご参詣をいただき、誠にありがたい報恩講となりました。」

講師の先生も、参詣者が多いことはもちろんの事、若い人が多くお参りして下さっていることや、男性の方も多いことに感動して下さっていました。

本年は本山において、親鸞聖人御生誕850年、立教開宗800年の年となります。このご縁を共に慶び、そのテーマである「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」に込められた願いを受け止め、意義ある人生を送っていくことが願われているのです。

観梅会に合わせて(つりびな祭りの協賛行事) 光受寺本堂

〇二月二十三日 1時半〜 落語会 T・Sさん

〇三月四日 2時〜 一胡演奏

春の催し



冬有りて

春に芽の吹く

いのちかな

作者不詳

昨年から今年にかけての寒さは厳しいものでした。しかし、この寒さがついでに春には多くの植物が芽吹き始めるのです。

人間の人生に当てはめて考えてみれば、冬の寒さは苦難といつことなのでしょうが。

ともすると私たちは苦勞や苦難な人生を避けて生きられる人生を願う、それが良い年となり、良い人生となると信じていますが、厳しい寒さ、厳しい苦難を乗り越えてこそ、植物も人も美しく命が輝くのではないのでしょうか。

新コーナー

十二回連載

樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ 南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

― 問いつける歩みをとまこ ―

8回目

真仏土と化身土

教行信証は前4巻に続いて、真仏土と化身土の2巻が加えられています。以前の教義の説明では「教行・証」で行われていましたが、親鸞聖人は、これに信を加え、さらに末尾には真仏土・化身土の2巻が添えられています。

真仏土は、真実の浄土に往生することであり、化身土は仮の浄土、真仏土に至る前段階の浄土を意味しています。「化身土」の巻には「ついでに化身土をあらわさば、仏という無量寿仏、觀經の説のごとし、真仏觀の仏これなり」とあり、あじやせは救われると結論したものの、5逆の人間が往生するところは、真仏土でよいのか?と問い、思案の末に設けた化真土であったようです。真仏土は、仏は不可思議光如来であり、浄土は無量光明土とされ、5逆の人、煩惱熾盛(ぼんのうしじょう)の人の往くところとは不似合いな浄土と考え、前段階の浄土として「化真土」と設けたものようです。



光受寺御遠忌法要

おしらせ

同朋会・金曜喫茶はお休みです。

「お寺サロン」 二月十八日 午後2時 廣専寺